

～モダンな意匠性～

デザイナーとの意匠開発 「2010年 グッドデザイン賞」「2016年 ウッドデザイン賞」を受賞

国産材を使った建具は古民家や和風住宅をイメージされることが多い。日本らしい簡素な「侘び寂び」感のあるモダンな住まいにコーディネートできる建具のデザインを目指した。

「造形デザイナーにとって世の中になく奇抜な物を出しやすいものです。それより“どこにでもありそうだが、他所と違ってどことなくいい”というものを考えるのが難しいが大事なことです。長く使っても飽きのこない建具にはそんな考え方が必要ではないでしょうか」という京都工芸繊維大学山本教授の考えと当社の開発コンセプトが合致し平成 19 年共同で開発に着手した。

基本概念は「“百年の時を超える”建具」

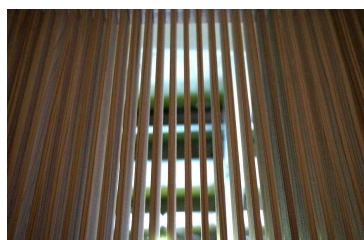
- 1) 国産材の赤味白味のコントラストを生かす
- 2) 人間味のある(手技を感じる)商品
- 3) 素材の柔らかさを体感できる
- 4) 品よく質感が高い
- 5) 末永く使ってもあきがこない



デザイナーの山本建太郎教授

バランス重視

「細かなディールまで拘らないといいデザインにはならない」との考えで各部材を徹底的に見直した。縦ラインの美しいデザインには縦框と横棧、組子の本数と幅とピッチなどバランスがポイントになります。なかでも組子と隙間の幅の関係は微妙なバランスです。



繊細な縦ライン

0.5ミリ単位の調整は日本の住まいの中で何年経っても飽きのこない高質な建具であり続けるために重要です。デザイナーと何度も試作を繰り返しながら全体のプロポーションを決めていった。



バランスを検証する